

特集2

第1章

ありきたりじゃない
攻略法
運に左右されない
圧倒的な
実力のつけ方

2次試験
先入観からの
脱却

100点
を目指す
学習STEP

立花 夏生
LBC東京リーガルマインド 専任講師
中小企業診断士

読者の皆さんの中には、「ありきたりじゃない」というタイトルに違和感を覚えた方もいるでしょう。ただ、私が伝えたいのは、2次試験の本質を踏まえた学習法であり、奇をてらったものではありません。「普通に勉強すれば合格できる」、「周りの受験生と同じことをすれば合格できる」など、巷間に流布する「ありきたり」の考えとは一線を画すという意味で、この言葉を使いました。

ここ数年の2次試験の合格率は18%前後で推移しており、紙一重の差で合格が決まります。ここでは、この上位18%に勝ち残るための「ありきたりじゃない攻略法」をお伝えします。次のような方には、特に読んでいただきたいと思います。

- ・これから2次試験学習をスタートされる方
- ・学習の成果が実感できず、悩んでいる方
- ・先入観に縛られ、思考が固まっている方
- ・今年、何としても2次試験に合格したい方

1 圧倒的な実力で合格を目指す

2次試験は年に1度しかなく、2度失敗すると1次試験から再スタートになるという難しさがあ

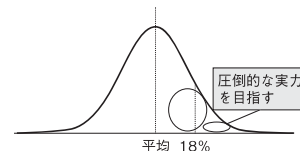
ります。近年、2次試験の受験者数は8,000人を超えており、本気で合格を目指すライバルに勝つためには、圧倒的な実力が必要です。

そこでまず、圧倒的な実力とは何か定義します。

(1) 運に左右されない対応力を身につける

2次試験は運の要素が強い試験だといわれることもあります。たとえば、当日出題された問題との相性の良し悪しで、得点が左右されることが考えられるでしょう。一方で、運が関与しない勝負事など存在しません。大切なのは、運に左右されない対応力を身につけることです。

下図のように、受験生の得点の正規分布をイメージしてみましょう。自身の実力が平均から少し上のレベルだと、たしかに運次第で合格が分かれてしまいます。でも、実力がそれ以上に上位レベルであれば、問題との相性が悪くても合格できる確率が上がります。



よって、年に1度しかない試験で合格の確率を上げるためには、問題との相性に振り回されない対応力を高めることが大切です。

(2) 100点をを目指す

私自身が受験生だった頃から、2次試験は100点（満点）を目指してはいけないという論調が強かったように思います。その理由は、「100点をを目指す」と論理が飛躍する、「キーワードを並べることがリスク分散になる」というものでした。果たして、本当にそうでしょうか。

100点を目指しても、論理は飛躍しません。また、文字数の制約がある中で、必要のないキーワードを並べるのは、かえってリスクになります。

100点をを目指すために必要なのは、①題意を捉える、②与件文の根拠をもとに、題意に沿った解答を論理展開する、という2つのステップです。論理が飛躍する原因は、題意が捉えられていないか、論理的に読み・考え・書く能力が不足しているかのいずれかです。決して、100点を達成することに起因するものではありません。

また、周りの受験生が書きそうなことを書けばいいという意見もありますが、それはエスパーでない限り無理なので、与件文や設問と真摯に向き合ったほうが正答できる確率が上がります。

100点を達成してはいけないという先入観に縛られていた方は、もう一度気持ちを改めると、視界が開けると思います。

(3) 何が正解かわからない～勝負はそこから～

過去に2次試験を受けたことのある方は、試験当日のことを覚えていますか。おそらく多くの方が、何が正解かわからないと頭を抱えたことでしょう。それでは、知識を増やせば、こうした状況を回避できるでしょうか。

おそらく、答えはNoです。2次試験を難しく

している理由は、「無知」ではなく、「混乱」にあるからです。具体的には、設問要求が抽象的で、題意が捉えにくい（何が問われているのかわからない）点にあるのです。

無知は知識量を増やすことで回避できますが、混乱は回避できません、むしろ、試験本番は混乱状態を回避できない中での勝負になります。

講師である私も、初見の問題を見たときには、何が問われているのかわからないと、毎回頭を抱えます。ただし、そのような状態になったときの対応策は持ち合わせています。

与件文と設問には、事例企業が将来的に成長していくストーリーが描かれています。つまり、第1問の環境分析の問題で指摘した強みを後の設問で生かしたり、弱みを後の設問で克服したりといった流れがあります。そのため、混乱状態に陥ったときこそ、設問間の関連性を意識してストーリーを考察することが題意を外さないコツです。

一方で、混乱状態に陥ったときに、知識やアイデアに頼ってしまうと、題意を外した答案を書いてしまいます。そうならないよう、混乱状態となることを想定して過去問を分析し、対策を練りましょう。

(4) 与件ベースで解答を組み立てる

題意を捉えるという点では、与件の根拠に着目することも大切です。与件文には、出題者が意図的に盛り込んだヒントがあります。

また、2次試験では与件文に書いてあることだけが事実です。つまり、与件ベースで解答を組み立てることは、事実ベースで事例企業を診断することであり、正攻法になります。

多くの方が、「与件の内容から離れない」、「与件第一」と心がけているとは思いますが、与件の根拠から論理的に解答をつくることは、心構えだけではできません。論理的思考力が必要です。